

石油ストーブの安全な取扱い方

正しく使って 暖かい冬を！



寒い季節になり、家庭や職場ではストーブなど暖房器具を使用する機会が多くなります。特に持ち運びが容易で操作も簡単な石油ストーブは、家庭や事務所などで広く用いられていますが、部屋の中には燃えやすいものがたくさんありますので、火災に対する注意が必要です。

ストーブによる火災は、出火件数では7位ですが、1件当たりの損害額をみると約500万円と2位になります。持ち運びが容易なことから、不用意にカーテンなど可燃物の近くに置いたりしていませんか？ いつたん、火災となれば大火災につながるストーブ火災、細心の注意が必要です。

◆ポイント

- 使用する前には必ず整備点検する。
- ふすま、カーテンなど燃えやすいもののそばや、物が落さずするところでは使わない。
- 火をつけたままの給油や持ち運びはしない。
- 乾燥機がわりに使わない。
- 対震安全装置は正しくセットして使う。
- 外出するときや寝るときは完全に消火したことを確かめる。

- ② 小さな火でも119番に通報する。当事者は一刻も早い消火活動を行い、通報は近くの人に頼む。
- ③ 出火から3分以内が消火できる限度（火が天井に燃え広がつたら手がつけられない）。
- ④ 水や消火器だけで消そうと思わず、座布団や毛布など、手近のものを活用するなどの機転をきかせ、一刻も早い消火活動を。

- ⑤ 避難するときは延焼を防ぐため、燃えている部屋の窓
- ⑥ 早く逃げる

- ③ 濡らしたタオルやハンカチなどで口や鼻をおおう
- 水分は煙の成分を吸収し、有毒ガスを薄める効果があります。また熱さから顔を守るためにも重要です。



やドアを閉める（空気を絶つ）。



煙の成分には有毒ガス（一酸化炭素や塩化水素など）が多く含まれているため、吸い込むことで中毒死に至ったり、身体のまひなどで避難行動ができなくなってしまうことがあります。

① 煙の性質を知つておこう 煙のスピードは横方向に毎秒約1m、上昇時には毎秒3～5mといわれています。想像以上の速さで煙は広がりますので、すみやかな避難が大切です。

② 姿勢はできるだけ低くして煙は上方へ上がる性質があるため、下の方が煙は薄く空気が残っている可能性があります。そのためできるだけ姿勢を低くして避難しましよう。